

とうきょう 普及

インフォメーション

令和8年1月 島しょ版

- ◆新年を迎えて
- ◆ブルーバルディアの生産振興
 - ◆レザーファン栽培における灌水タイマーの導入
 - ◆パッショングルーツの果皮着色不良軽減技術の導入
 - ◆ルスカスの農薬散布による葉汚れ対策
 - ◆農業における光利用技術について
 - ◆大島メモ：クチナシ花の会の活動支援
 - ◆新島メモ：トウガラシ栽培に新たな担い手
 - ◆三宅メモ：パッショングルーツのブランド化と販路開拓
 - ◆八丈メモ：青ヶ島の伝統行事「牛祭り」
 - ◆お知らせ



● 東京都農業振興事務所ホームページで最新号とバッケンバーをご覧いただけます (URL↓／QR➡)
<https://www.agri.metro.tokyo.lg.jp/>



● 東京都島しょ農林水産総合センターのホームページはこちらです (URL↓／QR➡)
<https://www.ifarc.metro.tokyo.lg.jp/>



東京都産業労働局

Tokyo Tokyo

新年を迎えて

東京都島しょ農林水産総合センター 所長 中野 卓



島しょ地域の皆様

新年明けましておめでとうございます

2

昨年は10月に大型の台風が立て続けに八丈島、青ヶ島の近くを通過したため、両島を中心に甚大な被害が発生しました。被災された方に心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧と、平穏な日常が戻ることをお祈り申し上げます。

今年の干支は丙午です。丙午の年は、火の力が重なる情熱の年と言われています。年頭にあたり、力強く挑戦を続ける一年にしたいと考えます。

1 次期5か年「協同農業普及事業実施方針」

農林水産省は昨年4月、全国の普及指導センターの業務の基本となる「協同農業普及事業運営指針」を発表しました。

国の運営指針では、①担い手の確保・育成②スマート農業技術、農業支援サービスの活用等による農業の生産性向上と生産基盤の強化③みどりの食料システム戦略の推進④食料の安定供給の確保⑤農村の振興⑥東日本大震災からの復旧と大規模自然災害等への対応を基本的な課題として掲げています。

東京都は、猛暑による農作物への影響、原材料費の高騰、高齢者の引退による農業従事者の減少など、東京農業を取り巻く状況の変化を踏

まえ、新たな「協同農業普及事業実施方針」を策定し、普及指導センターの更なる充実に取り組みます。

2 暑熱対策

昨年の夏は、本当に暑く、長かったです。都心では35℃以上の猛暑日が、年間26日と過去最高を記録しました。都心より涼しい島しょであっても、こうした傾向は今後も継続することが予想されます。このため、農家の皆さんに必要な熱中症予防対策に関する情報を収集するとともに、栽培作物に適した遮熱方法、栽培方法等の検討、検証を進め、還元していきます。

3 島しょ地域農業振興プロジェクト

本所に島しょ農業振興担当課長が配置されると同時に開始した本事業は、今年度で3年目となりました。

① 担い手確保特別プロジェクト

●島しょ就農PR動画の地下鉄車内広告では、八丈島に島外から就農した方を紹介した動画を、昨年に引き続き今年度も都営線4路線で、5月と11月に延べ4週間配信いたしました。

●給食への農産物共同集出荷に向けた運営方法の検討では、これまでの調査を踏まえ、学校給食等へ円滑に地元の農産物を提供する集出荷体制等について、具体的なモデルを提案します。

② 各島の農業の協同組織等への支援指導

八丈島において、試験研究で取り組んでいる施設栽培における環境制御技術や気象災害に強い施設などをテーマとする講習会を予定しています。講習会等のご要望がありましたら、遠慮なくご相談ください。

結びに

今年も、行政、研究機関としっかりと連携して普及活動に取組んで参ります。1年間の天候の安定、皆様のご健勝とご多幸、関係団体・島しょ地域の益々の発展をお祈り申し上げます。

大島事業所
普及指導センター
(大島班)

東京都中央卸売市場のブルーバルディアの取扱量は、大島が50%を占め、全国有数の産地として知られています。しかし、近年、出荷量は減少しており、それを打開するため、農林総合研究センター（以後、農総研）はオリジナル品種を開発しました。これまでに一重咲きの「東京スター」3品種を品種登録し、八重咲きの「東京ダブルスター」3品種も令和3年度に出願公表されました。さらに、令和5年度には、「東京スター」「東京ダブルスター」各品種が新たに令和5年出願公表されました。この新2品種の普及を促進するため、関係機関と協力し、生産者部会の皆様と現地実証に取り組みました。

現地実証の取組

令和5年度と令和6年度で、品種登録出願中の「東京スター」シリーズ「オーロラ」（緑と桃一重の花）（図左）と、「東京ダブルスター」シリーズ「フラミンゴ」（桃八重の花）（図右）の現地実証を、6カ所の圃場で行いました。

東京スター 「オーロラ」	東京ダブルスター 「フラミンゴ」
	
緑から 淡いピンクに変わ る 花色を表現	薄いピンクと赤色の コンビネーションや 上品な雰囲気を表現

図 ブルーバルディア新2品種

普及指導センターは、現地実証を支援とともに、栽培指導を行いながら、新2品種の特性把握に努めてきました。また、関係機関と協力し、現地検討会を開催し、新品種の生育状況や市場性などの意見交換を重ねてきました（写真1）。新2品種に対する生産者部会の評価

ブルーバルディアの生産振興



写真1 実証圃場での現地検討会（令和6年10月）

はおおむね高く、特に「オーロラ」は他にはない花色と、樹勢に優れ生育が良い点が評価されました。また、生花市場からは特に「オーロラ」の独特の花色から相対での注文が入るとの声があり、海外品種より高単価での取引も確認できました。

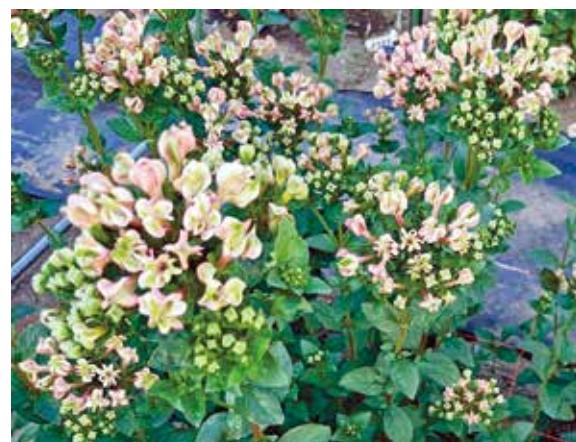


写真2 圃場で開花を迎えた「オーロラ」

今後に向けて

現地実証の結果を踏まえ、令和6年度、種苗会社による新2品種の苗販売が始まり、新規就農者を含む6名の生産者が、新たに苗を導入しました。普及指導センターは引き続き関係機関と連携して、大島におけるブルーバルディアの生産振興に取り組んでいきます。

大島事業所
普及指導センター
(新島班)

レザーファン栽培における灌水タイマーの導入

レザーファンは神津島村を代表する農産物ですが、近年、市場出荷量が減少しています。この原因としては、生産者の高齢化により灌水が不十分なことによると思われる葉先枯れ症状等の発生があります。そこで、今回は灌水タイマーの導入による省力化、および確実な灌水による品質向上について効果を検証しました。

栽培の概要

慣行栽培の灌水は、各ハウスの水栓を手動で操作し、おおむね7日に1回スプリンクラーで灌水しています。しかし、畑が分散しているため、灌水作業は移動を伴い手間がかかるため、十分な灌水ができていないのが現状です。試験区では、灌水タイマーにより、生産者が畑に行かず灌水を行える環境を整備することで省力化とともに灌水量を増やし、品質向上を目指しました。

令和6年9月に灌水タイマーを設置し、収穫調査を令和7年2月26日に行いました。灌水は試験区では3日に1回とし、灌水量は各区ともに1回あたり3,600ℓ(120分)行いました。

また、出荷量調査は、試験区では令和7年2月5日、11日、18日、慣行区は令和7年2月25日、3月4日、11日に実施しました。その他の栽培管理は農家の慣行により行いました。



写真1 灌水タイマー



写真2 葉先枯れ症状

調査結果

出荷量調査では、試験区は慣行区に比べ出荷量が多く、概算出荷額は試験区が34,800円多い

結果となりました(表1)。

収穫前の葉先枯れ症状等発生状況調査では、試験区は慣行区に比べ、葉先枯れや黄化症状等の発生が少ない結果となりました(表2)。

さらに、試験区は慣行区に比べ展葉前の新芽数が多く、充実度合いも良好でした。

表1 出荷量調査(1aあたり)

	SS	S	M	L	概算出荷額
試験区	280枚	480枚	360枚	120枚	52,800円
慣行区	100枚	180枚	120枚	30枚	18,000円

表2 収穫前の葉先枯れ症状等発生状況(1aあたり)

	葉先枯れ症状	その他症状(黄化等)
試験区	30%	10%
慣行区	60%	30%

経営評価

経営面では、慣行区は灌水作業時間、試験区は灌水装置代と設置作業時間で、作業時間は人件費(東京都の最低賃金1,163円)で試算しました。収支は表3のとおりです。

表3 試験区と慣行区の収支状況(1aあたり)

	試験区(円)	慣行区(円)
収入	概算出荷額	52,800
	灌水装置	14,000
支出	設置作業(1h)	1,163
	灌水作業(8.6h)	10,002
	15,163	10,002
収支	37,637	7,998

以上のことから、灌水タイマー設置の費用はかかりますが、導入による省力化、および生産性と品質向上による増収は、経営上のメリットが大きく、有望な技術であると言えます。

今後の課題

今回の取組は農家からの評判も良く、レザーファン部会で灌水タイマーを導入することになりました。しかし、現在はレザーファン栽培における適正灌水量に関する指標がないので、今後は適正灌水量の検証を進めていきます。

三宅事業所
普及指導センター

パッションフルーツの 果皮着色不良軽減技術の導入

三宅村では、施設栽培パッションフルーツにおいて、梅雨明け以降の高温による果皮着色不良の多発が問題となっています。そこで、遮熱効果のある資材を用いて、施設内の昇温抑制と着色不良果の発生軽減効果を検討しました。

調査方法

パッションフルーツを栽培している連棟パイプハウスを用いて、遮熱区は令和7年6月18日に遮熱剤（商品名：「レディヒート」5倍希釀液を動力噴霧器で塗布し、対照区は無塗布としました。

施設内の温度と収穫果数は6月21日から8月31日にかけて、収穫果実の果皮色は6月24日から8月26日にかけて7日おきに測定しました。また、果皮色は、当事業所の評価基準（0～4の5段階）に従い、カラーチャート値0から2を着色不良果と判断しました（図1）。



図1 評価基準 (カラーチャート)

調査結果

(1) 温度の抑制効果及び収量への影響

遮熱区及び対照区のハウス内棚下の温度を比べると、遮熱区は対照区と比べて平均温度で約0.5℃、最高温度で約2.7℃低く推移しました。また、遮熱区は対照区より約13%多い収穫果数となりました（表1、2）。

表1 ハウス（棚下）温度

	単位：℃		
	遮熱区	対照区	差
平均	28.7	29.2	-0.5
最高	39.8	42.5	-2.7

表2 収穫果数

	単位：個（各区120m ² ）		
	遮熱区	対照区	差
合計	2,337	2,065	272

(2) 果皮の着色促進効果

各区の果皮の着色程度を図2、3に示しました。



図2 果皮色調査の状況
(7/1、左：遮熱区、右：対照区)

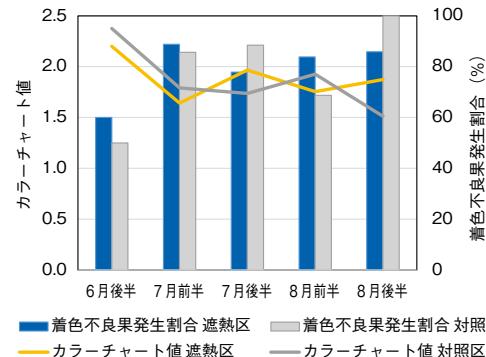


図3 着色不良果発生割合及びカラーチャート値

遮熱区の着色不良果発生割合は、全期間平均で対照区より約3%低くなりました。遮熱資材の塗布による費用対効果を確認したところ、レディヒート1缶31,900円（税込、令和7年6月当時）で塗布可能な面積は、希釀倍率5倍の場合約286m²であることから、ハウス1棟(120m²)あたり約3万円の効果が確認されました。

まとめ

遮熱資材を塗布し施設内の暑熱対策を行うことで、果皮着色程度が改善したほか、収量増加や作業性の向上などの効果が確認されました。本結果をパッションフルーツ生産者に報告したところ、導入を検討する声があがりました。普及指導センターでは、この技術の導入を支援していきます。

八丈事業所
普及指導センタールスカスの農薬散布による
葉汚れ対策

ルスカスは八丈町を代表する主要な切り葉品目ですが、ここ数年、病害が増加し、安定生産に悪影響を与えています。病害の防除には、殺菌剤の散布が有効ですが、農薬によっては散布後、葉（仮葉茎）が汚れる（以下、「葉汚れ」）ことが分かっており（写真1）、農薬の使用を控える生産者もいます。

そこで今回は、この葉汚れを軽減させるために、散布ノズルの違いや展着剤の有無が葉汚れに及ぼす影響を調査し、葉汚れ対策技術の確立を目指しました。写真1 農薬による葉汚れ



葉汚れの主な原因

葉汚れは、農薬散布後に薬液中の水分が蒸発し、固形成分が葉に残ることで発生します。特に、希釀した薬液がしっかり混ざっていなかった、散布にムラがあった、薬液が乾くまでに時間がかかった、などの原因で固形成分が一部に集積し、汚れが発生します。

試験の概要

今回の試験では、農薬の乾燥を早め、散布ムラを無くすため、町内で多く使用されているピストル型噴口ノズルより散布される水の粒子が小さい、三頭口型噴口ノズルを試しました（写真2）。また、展着剤はこれまでの使用実績等から「ドライバー」を使用しました。

試験は、令和7年2月に、3連棟ストロングハウス（486m²）3棟に、表1の方法で、農薬を散布しました。調査は、散布約1カ月後に各区の仮葉茎の汚れ程度を調査しました。



写真2 左:ピストル型噴口、右:三頭口型噴口

表1 試験区の概要

試験区名	噴口ノズル	薬剤
慣行区	ピストル型	トップジンM水和剤
試験区①	三頭口型	トップジンM水和剤
試験区②	三頭口型	トップジンM水和剤+ドライバー

調査結果

慣行区及び試験区①、試験区②の各葉汚れ程度の発生割合は図1のとおりでした。最も汚れが著しい「+++」は、慣行区が72.2%、試験区①が11.1%、試験区②が11.1%でした。汚れが見られない「-」は、慣行区が16.7%、試験区①が22.2%、試験区②が44.4%でした。この結果から三頭口型はピストル型と比較して、葉汚れを軽減できることが分かり、さらに、展着剤を加用することで、葉汚れを一層軽減できることが分かりました（写真3）。

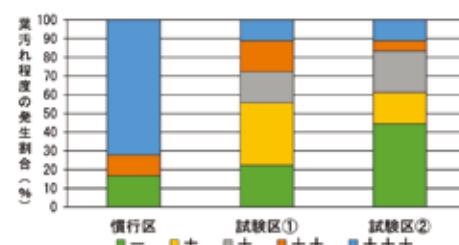


図1 各試験区の葉汚れ程度の割合

（凡例）+++：茎全体の葉に汚れが著しい、++：汚れが茎全体の葉に見られる、+：目立たないが茎全体の葉に汚れが見られる、±：集積した場所等、茎の一部の葉に汚れが見られる、-：全く汚れが見られない



写真3 各試験区の葉汚れの様子 (参考)

※左：慣行区（+++）、右：試験区②（-）

今後の課題

今回の結果から、葉汚れを軽減させるためには、三頭口型噴口ノズルを使用し、さらに展着剤を加用することの効果が確認されました。今後は、効果的な使い方なども検討しながら、生産現場への普及を図っていきます。

農業振興事務所
振興課
技術総合調整担当

農業における光利用技術

～生育制御と防除など～

作物（植物）が育つには、光、水、空気、温度、養分の5つの要因が必要です。これらの量の多寡や互いに適度な割合が保たれることで順調に生育、開花します。今回はその中の一つである「光」が生育や防除に影響することを紹介します。

光はどのようなものか

自然界における光は太陽光です。その光を利用して作物は体内で光合成をおこない、エネルギーを得て生長しています。また、光の強さ（光量）、光の質（波長：紫外線、可視光線、赤外線など）、光の当たる時間（明期、暗期）が生育や花蕾の形成、開花に影響します。

キクの電照栽培は古くからおこなわれている技術で、昭和12年頃に豊橋市でアセチレンランプを使って試されたとされ、その後に全国の花き栽培に広がりました。近年は、光を活用した病害虫の防除技術も研究開発され花き生産に利用されています。

生育と花芽の形成

花き類は日長時間（連続する暗期時間）により、花芽形成がされるもの（短日・長日植物）と影響を受けないもの（中性植物）があります。

表1 主な花き類の日長反応

短日植物／暗期が長くなると花芽形成する
アサガオ、キク、コスモス、シャコバサボテン等。
長日植物／暗期が短くなると花芽形成する
カーネーション、ペチュニア、キンギョソウ、アヤメ等。
中性植物／暗期（日長）の影響を受けないもの
アスター、マリーゴールド等、多くの植物。

これら光に対する植物の反応を利用して、電照栽培（夜間に光を当て暗期を短くする）技術が実施され、開花時期を調整する花き類の生産がなされています。また、草丈の伸長を促進させたり、抑制するなどの効果に関しても、研究がすすんでいます。

病害虫の防除利用など

光による病害虫の防除は、光の波長（青色光、赤色光、紫外線など）を利用して、対象病害虫の繁殖行動抑制や誘引・忌避、作物（植物）の病害虫耐病性の活性化を促進する技術です。近年はIPM（総合的病害虫管理）の一環として、農薬使用の削減などに関する取り組みとして行われています。

表2 光の種類とその効果

青色光（450–470nm付近）
ハダニ、アブラムシ、コナジラミなどの誘引阻害。マメシンクイガなどの行動攪乱や繁殖行動阻害。ショウジョウバエなどの殺虫効果。
赤色光（600–660nm）
アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマなど）などの飛翔や繁殖抑制して密度を減少。
紫外線（UV–B、280–315nm）
作物（植物）に照射すると病害抵抗性遺伝子を発現させて、うどんこ病等を抑制。
黄色光（570nm付近）
夜蛾類（ハスモンヨトウ、オオタバコガなど）の飛来や吸汁、産卵行動を抑制。

紫色光で土着天敵（ヒメハナカメムシ／アザミウマ類を捕食）を誘引する方法も行われています。



写真 天敵誘引灯（左）と夜間の照射（右）

光を栽培に活用

光（太陽光）は作物の生育や病害虫の行動など様々なことに作用しています。人工の光である電灯を上手に活用して健全な作物を育てて、収穫するために、光利用の技術を利用してみてください。



大島メモ

クチナシ花の会の活動支援

普及指導センターでは、大島町の特産品である「クチナシ」の生産者部会の活動を支援しています。クチナシは販売期間が限られるため、生花店で取り扱う期間が短い特徴があります。そのため、園芸振興担当と連携して、鮮度保持剤を使用した、鮮度保持技術について試験を行っています。毎年、生産者と検討会を行い情報提供を行っています。

また、島内生産者のクチナシ栽培をまとめた事例集を作成して新規就農者の栽培指導に活用しています。普及指導センターは今後も、土壌診断や肥培管理、病害虫防除などの指導を通じて、大島の良質なクチナシの安定生産に向けた支援を行っていきます。



クチナシ開花の様子

三宅島メモ

パッションフルーツのブランド化と販路開拓

三宅村はパッションフルーツのブランド化と販路開拓に取り組んでいます。

普及指導センターは、島内住民の公募から採用された新たなブランド名「三宅島パッションフルーツとろぴか丸」(以下、「とろぴか丸」)を活用し、ロゴマークの作成や団体商標取得などの支援を行いました。また、このブランド名を活用した販路開拓も進んでおり、「とろぴか丸」を使用したクラフトビールが新たに商品化されるなど、加工用果実を含めた新たな販路が広がりつつあります。普及指導センターは、「とろぴか丸」の生産と販売が安定するよう、今後も支援を継続していきます。



「とろぴか丸」のロゴマーク

新島メモ

トウガラシ栽培に新たな担い手

新島村の特産品の一つであるトウガラシは、「一味唐辛子」等に加工され、お土産として観光客に人気の一品です。しかし、将来的に担い手の不足が予想され、課題となっていました。そこで、既存農家が中心となり生産者を増やすため、新規就農者や家庭菜園を行う住民等に広く呼びかけて生産者を募り、新たに5名のトウガラシ生産者が誕生しました。

新たな担い手の中には、これまで農産物の販売が未経験の方もいるため、普及指導センターは、栽培の基礎から指導しています。今後は指導農業士やベテラン生産者等と連携し、新たな担い手が安定した生産を行うため、技術習得する支援を行います。



栽培中のトウガラシ

青ヶ島メモ

青ヶ島の伝統行事「牛祭り」

青ヶ島村では、毎年8月10日に「牛祭り」が開催され、島の大事な伝統行事となっています。一昨年から牛の共進会はなくなりましたが、花卉園芸品評会や農林水産物・加工品・手工芸品品評会などが開催され、産業祭としての面影を色濃く残しています。

花卉園芸品評会では、青ヶ島で生産が盛んなフェニックス・ロベレニーやキキョウラン、オオタニワタリなどの切り葉が出品され、普及指導センターなどが審査しました。毎年、品質の高い切り葉が多く出品され、青ヶ島農業の高い技術力を伺える場となっています。普及指導センターでは、今後も農業者の栽培技術向上をはかり、牛祭りの開催を支援していきます。



牛祭り会場

お知らせ



◎第47回関東東海花の展覧会

日時：令和8年1月30日（金）～2月1日（日）

会場：池袋サンシャインシティ文化会館2階展示ホールD（豊島区東池袋3-1-4）



●表紙写真：三宅島パッションフルーツとろぴか丸贈答箱（三宅島）

◆お問い合わせは下記まで・・・

島しょ農林水産総合センター 振興企画室

☎ 03-3454-1953

大島事業所普及指導センター

☎ 04992-2-1123

大島事業所普及指導センター新島分室

☎ 04992-5-0281

三宅事業所普及指導センター

☎ 04994-6-1414

八丈事業所普及指導センター

☎ 04996-2-3158

とうきょう普及インフォメーション島しょ版

令和8年1月1日発行

印刷物規格表第1類
登録番号(7)10

編集・発行 東京都農業振興事務所振興課

立川市錦町3-12-11

☎ 042-548-5053

FAX 042-548-4871

印 刷 明誠企画株式会社

☎ 042-567-6233



古紙配合率80%再生紙を使用しています



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。